

親や先生が変われば子供が変わる 大人の心をつくるインストラクター

代表・心づくりのインストラクター プロレスラー・元参議院議員
榎田 誠次 × 大仁田 厚



大仁田 早速ですが、不登校や引きこもり問題などを特に取り組まれていると伺いましたが、多数のご経歴をお持ちだそうですね。

榎田 私は大学を卒業後、PL(パーソナルトレーナー)教団で三十二年間宗教家をやっていました。そこで三〇、〇〇〇回を超える悩み相談を受けながら、心と人生の関係を長く研究してきました。

大仁田 三〇、〇〇〇件というのは相当な回数ですね。

榎田 始めて不登校児の相談に乗ったのは二十三歳の時でした。何とか親御さんの悩みを解消してあげたいと何度もご自宅へ足を運んだり、今から思えばその時は情熱だけで動いていました。はじめはご両親と居間でお話するだけでしたが、隣の部屋で不登校の娘さんが会話を聞いているのが分かっていたので、あえて聞こえるように興味を惹く話などをしていました。そうしたある時、

ふとしたきっかけで娘さんが部屋から出てきてくれ、それから徐々に会話を交わせるようになったのです。

大仁田 その娘さんが不登校になつたきっかけは何だったのでしょうか。

榎田 学校での対人関係が原因だったようで、娘さんは三年間、訪問した私に会うまで家族以外の人と接触がなかったそうです。

大仁田 私のやっているプロレスショーは力の誇示ではなく、弱い人間が這い上がっていくというコンセプトに基づいていて構成されているのですが、そのため、悩みを抱えた若者が見に来ることが多く、ショーが終わった後で「生きる勇気をもらいました」という声を毎回頂きます。彼らのことを思うと代表のような活動をなさる方が心強いです。

榎田 パワーを与えられる大仁田さんのプロレスが素晴らしいですね(笑)。悩む不登校生は周りの人間が矯正するのではなく、自分の意思で立ち上がる力を持っているのですから、そういった自立心を育てることが大切です。そこで、重要になるのが親の存在です。私はまず、親の心を変えていくことで子供も変わり始めると考えています。

大仁田 私も議員時代に海外の教育環境を視察させて頂く機会をたくさん

持ちましたが、自分の夢をしつかりと語れる子供の親は純粋な気持ちで子供と接していました。

榎田 親の心を磨いていくことは私達が直面している重要な課題です。傲慢な親の子は傲慢になりますし、努力する親の子は努力する子供に育ちます。心は何世代もずっと引き継がれていくものなのです。今の日本に本当に必要なのは、心を育てる教育です。そして、それを次世代に任せるのではなく、次世代を育てる大人から作っていく——大人こそがま

ず、自分の心を磨くためのトレーニングが必要なのだと思います。

大仁田 子は親の鏡と言いますからね。最近先生が心を患っているケースが多く、子供達にも大きな影響を与えているのではないのでしょうか。代表の『心づくりのススメ』(平成二十五年二月文芸社)という本にもその内容が書かれていますね。

榎田 ええ、私の本を読んだ教育カウンセラーのグループからセミナーを開いてほしいという依頼も頂き、現在、全国各地から悩める方のご相談が寄せられています。

大仁田 先生がP



有料メルマガ「子育て・孫育ての極意」配信中

ますだせいじ心のサポーター事務所

<http://www.mental-supporter.jp/>

大阪府大阪市淀川区木川東2-5-41
TEL.06-6195-5813 FAX.06-6195-5814

しを辞めてフリーになられた理由は何ですか。

榎田 教会に来て下さる人だけではなく、世の中のもっと多くの人に心づくりの大切さを知って頂きたいと思うようになりました。そのためには教団という枠組みから離れなければならぬと考えたからです。

大仁田 日本の未来を担う健全な子供を育てるためには、親や教育者の心づくりが不可欠なのです。先生の今後の目標をお聞かせ下さい。

榎田 自分の心を磨きながら実生活に臨むというライフスタイルを世の中に浸透させていきたいですね。

大仁田 議員時代も今も日本の様々な教育問題を改善したいと思っていました。心づくりのインストラクターとして更なる社会に貢献するご活躍を期待しています。